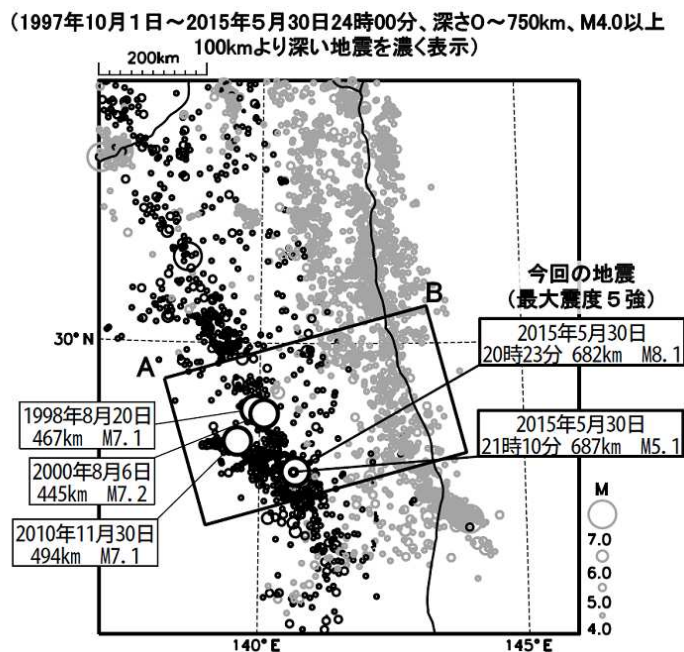


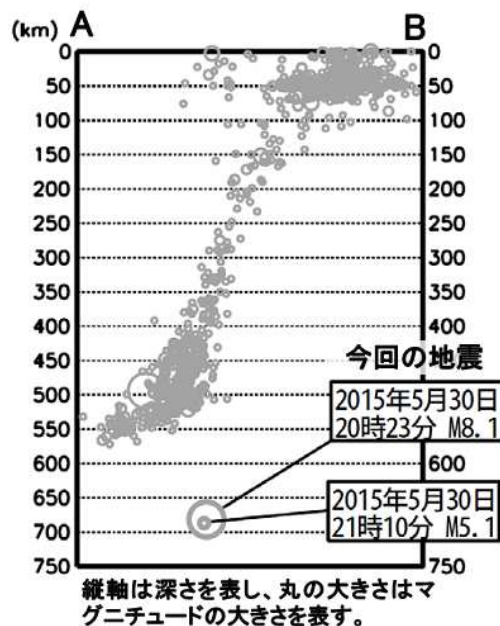
## 5月30日の小笠原沖の深発巨大地震 (M:8.1)

311の時に“想定外”という言葉が頻繁に使われましたが、実際には紀元869年の貞観の地震の再評価で、同じような超巨大地震が過去にも東北地方で発生した事が明らかになったり、世界各地でマグニチュード9クラスの地震というのはいくつも発生していました。

ところがこの5月30日の小笠原の深発地震（現時点で気象庁の公式見解では深さ682kmで発生）は、1890年頃から地震計による記録が取れるようになってから、世界の一番深い所で発生した巨大地震と考えられるのです。



気象庁発表による小笠原周辺の地震活動



左の四角の範囲の断面図

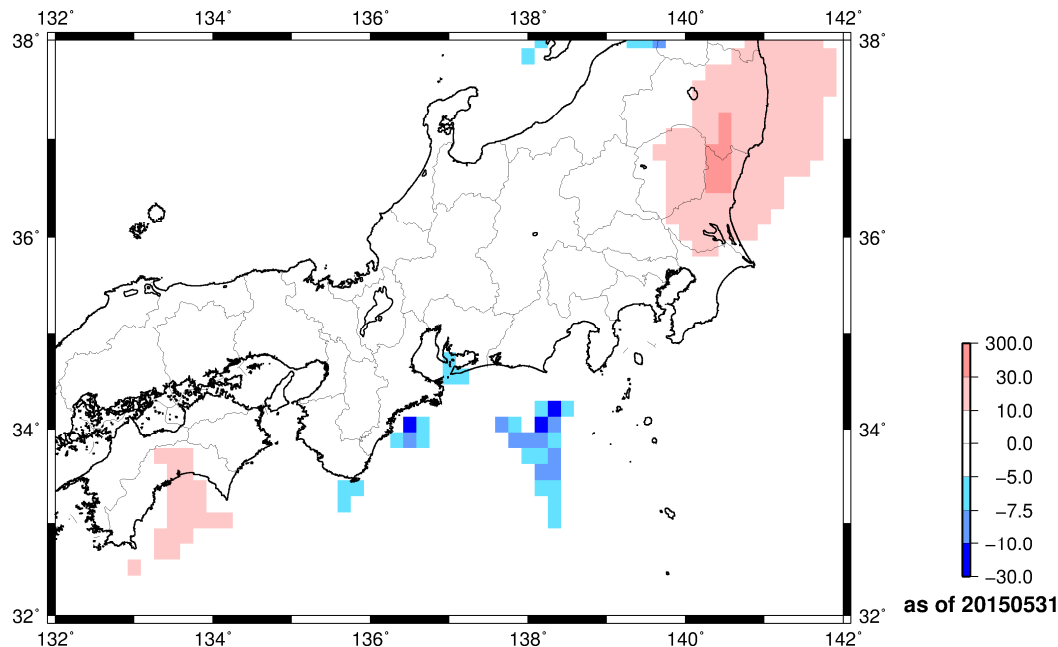
今回の小笠原の地震は通常地震が発生している所（沈み込む太平洋プレートの内部）から、かなり離れているようにも見えます。今後深さの修正があるかもしれませんが、通常は“地震が発生するはずのないような所”で発生したようにも見えるのです。まさに近代地震学の根本を揺るがすような地震と言っても過言ではありません。まさに“想定外”だったのです。

この近くでは、西之島の噴火という、“目の前で島が誕生”するという極めてまれな事も発生しています。幸い、震源が極めて深かったため、津波は発生しませんでした。この規模の地震が浅い所で発生すれば100%大津波が発生します。

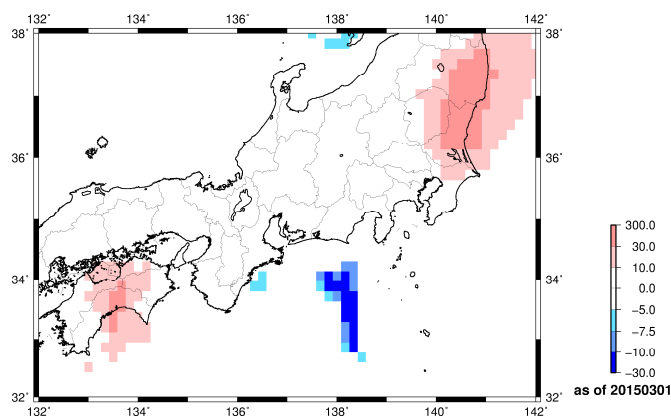
さらにこの地震では、エレベータの復旧には専門の資格をもった人間しか再稼働できない事が問題となりました（資格を取得するには2-3日の講習が現時点では必要）。少なくとも閉じ込められた人を最寄り階まで移動させ、助ける所までは、管理人や一般のマンションの住民でできるようにする必要（法改正を含む）があると思います。

## 中部・関西地方の地下天気図

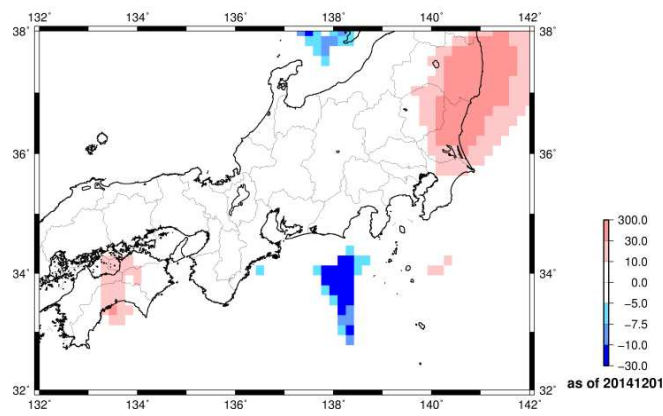
5月末日時点での比較的長期間のデータを利用した地下天気図です。関東地方については、この地下天気図では311の影響が強く残っているため、評価できません。関東地方および東北地方については、311以降の地震のみを使った別のパラメータでの解析を行っております（この地下天気図では長期間のデータを使用しているため、茨城・栃木・福島の赤い領域は311以降の余震活動により地震活動度が極めて高い状態となってしまいます）。



上の5月末との比較のため、3ヶ月前の3月1日時点と6ヶ月前の2014年12月1日時点の地下天気図を下に示します。



今年3月1日時点



昨年12月1日時点

ここ半年、ほとんどパターンが変わっていない事がわかります。紀伊半島南東部で少し地震活動が静穏化している領域がところどころに現れており、これらが今後拡大して、つながるような事があると非常に重大な意味を持ってきます。

現時点では静岡以西に大きな異常は存在していないという判断をしています。